

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000118		
法人名	医療法人社団 湘風会		
事業所名	グループホームレガーロ		
所在地	栃木県那須塩原市三島4丁目28-2		
自己評価作成日	平成27年11月28日	評価結果市町村受理日	平成28年6月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成27年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な日常生活を共に過ごして頂くことに力を入れています。朝の掃除であったり、毎日の散歩そしてお味噌汁作りなど出来る事を可能な限り一緒に楽しみながら行っております。それからの課題として、地域の中のグループホームとしての立ち位置をしっかりと見据えて連携に努めていきたいと考えております。何よりも地域の中で親しみ易い・行き易い居心地の良い場所のなれるよう努めていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所全体が明るくゆったりとした造りで、室内外ともバリアフリーとなっており、車いすでも使いやすい間取りとなっている。リビングの外のテラスからは田んぼが見渡せ季節の移り変わりが見て取れる。「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」の理念に基づき、一人ひとりその人の個性を尊重し、その人のペースに合わせ、洗濯物をたたんだり、料理を手伝ってもらったり、干し柿を作ったりなど、入居者と職員と一緒に日常生活を楽しんでいる。外出の機会も多く、日常的には事業所周辺の散歩が天気の良い日の日課となっており、入居者の希望を聞いての白鳥見学や紅葉狩りなどのイベント外出も多い。近所の人が、自宅の花を持参しお茶を飲んでいたり、事業所の夏祭りやクリスマスなどに来てくれたり、入居者も職員と一緒に近くの神社に盆踊りに出かけるなど地域との交流も活発である。職員の提案で入浴の時間帯を変更して午前中から入れるようにしたこと、入居者のタイミングに合わせて入浴出来るようになったなど、入居者の視点に立った業務の改善にも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念に沿って入居者のペースに合わせゆったりと自分らしく生活が送れる様、支援出来るよう心掛けている。	法人のグループホームの共通理念である「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を基本に、職員は定例会議や申し送り時に常に確認しながら、日々の支援に努めている。実践の場では、一人ひとりその人の個性を尊重し、その人のペースに合わせて、洗濯物をたたんだり、料理を手伝ってもらったり、干し柿を作ったりなど、入居者と職員と一緒に楽しみながら日常生活を営んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、施設周辺を散歩し近くの保育園児や近所の方々に挨拶をしている。又、初詣やお祭りに近くの神社へ行くことも出来た。近所の方がお花を届けて下さることもある。	施設周辺の歩道を散歩することが天気のよい日の日課となっており、途中の保育園の園児や近所の人と挨拶を交わしている。近所の方が、自宅の花を持参しお茶を飲んでいったり、事業所の夏祭りやクリスマスなどに来てくれたりしている。入居者は、職員と一緒に近くの三島神社に盆踊りに出かけるなど地域との交流も活発である。なお、職員も駅前の夏祭りの流し踊りに団体で参加し努力賞をもらうなど地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入し、地域の行事ふれあい祭りに参加することが出来た。又、施設への入居相談や見学の方に対してはできる限り分かりやすくお話をさせて頂く様、配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で出た意見を参考に改善すべき点や良い所はすぐに実践する様、配慮している。	併設の事業所と共催で、年6回運営推進会議が開かれている。会議は、家族代表、地域代表、行政等の代表で構成され、事業所からの運営状況の報告や行政情報の伝達の他、地域の行事などの情報提供も行われ、地域交流に力を入れてほしいという意見が出るなど活発な話し合いが行われサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	那須塩原市ケアマネ連絡協議会には、都合がつく限り参加している。介護保険制度や生活保護の法律関係やグループホームのあり方で疑問が生じた場合はすぐに市町村役場で確認している。	市の担当者は運営推進会議に出席して、行政関係の情報提供や入居者へのアドバイスなどをしてきており、その他の関係課からも情報提供を受けたり入居者の相談を行うなど、市とは協力関係を築いている。市のケアマネージャー連絡協議会にはケアマネージャーが参加し情報提供や意見交換を行っており、地域包括支援センター職員とも連絡や相談を行うなど良好な関係づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全の為、やむを得ず施錠を行っているが見守り強化及びスタッフ同士の声かけ等で施錠しない様にしていきたい。	職員の定例会議や申し送り時等に、入居者に対して適切な接し方を行い行動抑制にあたる言動が行われていないかなど常に確認を行っている。今年度は1月に虐待防止等についての研修会を予定している。なお、入居者の中に不安定な人がおり、現在は安全のためにグループホームの入口を施錠しているが、今後は様子を見ながら徐々に解除していく方向で職員と話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の研修を行うことでスタッフ全員が知識の共有をできる様、実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修でケアマネージャを中心に話し合いを行いスタッフ間で学びの共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が対応し十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対しては申し送りにて情報を共有しており外部には推進会議にて公表をしている。	家族等の意見や要望は、面会や毎月の支払いに来たときなどに聞きとるようにしている。遠方の家族から受診支援や散髪などの要望があり、往診に切り替えるなどの対応をとることもある。入居者からは、衣類や食べ物の要望が多く、近所のスーパーへ一緒に買い物に行ったり、外出時にラーメンを食べたりしている。家族には、入居者の状況について、月々の請求書送付時に、メモや写真で知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議等で意見や提案を聞く機会がありそれを活かすよう努めている。	毎月の職員の定例会議などで、行事の計画及び反省、入居者の生活状況とケアの見直し、業務面での改善や提案などが活発に話し合われている。職員の提案で、入浴時間が午後だけから午前中も入れるようにした結果、入居者にとってよいタイミングで入浴できるようになり、職員にとっても以前より時間の余裕ができたなど業務が改善されたという事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる限り労働条件の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修や合同研修を通して、学ぶ機会を設けている。資格習得への協力体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那須塩原市のサービス事業所連絡会を通して同業者との交流、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に事前訪問等で本人および家族との面談の機会を設けている。その際に相手の意見をよく伺う様に配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族に対してもサービス内容をできるだけ分かりやすく説明を行い、ご家族様が不安な事や希望を話しやすい様にできることを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査にて本人をよくアセスメント行った上でその後の判定会議にてサービスの利用に適しているかを判断している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力を最大限に活かせる様、余計な介護となり過ぎず一緒に作業、行動することを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ本人の生活状況を報告したり、入居前の様子を伺うことで情報を共有している。なるべく本人と家族が面会できる様、介入している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の人との交流、馴染みの場所に行く機会を作っている様に努力している。面会者に対してもまた来所して頂ける様、声掛けをしている。	入居前から通っていた自治会の生きがいサロンに職員が送迎しており、生きがいサロンではそば打ちや外出などを通じて知り合いとの交流が続いている。また、併設の小規模多機能型居宅介護施設から移ってきた人、知り合いがこの施設に通っている人などがいて、併設施設と自由に行き来できるよう職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士と一緒に何か行えるようにレク、活動を工夫している。スタッフが媒介者となり交流が広がる様、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もいつでも相談できる場であることを伝え、相手側に安心して頂ける声掛けに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動、行動を観察し、本人の思いを把握しようと努めている。また、これまで生活してきた本人の歴史を理解し本人のやりたい事を継続、実現できる様、介入している。	職員は何気ない日常の会話、行動や経歴などから、本人の希望や特技、思いや意向を把握している。昔好きだった編み物をやったり、書道の先生だった人が書を書いたり、美容師だった人が夏祭りに浴衣の着付けを行うなど本人の意向にそった支援をしている。入浴時の会話の中で、美容院に行って髪を染めたいという希望を聞き、家族に連絡して希望をかなえたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を活かし、今後の生活に役立てるものを見つけ出そうと努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりそれぞれの思いがある事を理解し、その方に合った声かけや関わりを行う事を努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の開催でスタッフと家族の意見を反映している。日々の申し送りからもケアの方法を統一したり課題をあげ解決しようとしている。	計画作成担当者は、入居者それぞれの担当職員が作成しているモニタリングの記録、定例会議でのカンファレンス記録や申し送り時の記録などで情報を収集し、家族・担当職員・管理者・計画作成担当者等で担当者会議を開き、本人や家族の意向を把握して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別経過記録と申し送りノートの活用によって情報が共有されている。また、入居者の担当者、ケアマネが話す機会を設け、課題が生じてないかを確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護職員からの情報により本人のニーズを明確にしていく。新たな課題が生じた際、医療や外部サービスの必要性も見据えて検討を行う様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームへ入居してからも必要だと思われる事に関しては地域資源の活用を継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携において書面や受診同行を行っている。家族が通院介助行えない方は往診医に診てもらって主治医になって頂いている。往診時には職員が状態を報告している。	かかりつけ医の受診は基本的に家族が同行し受診することになっているが、症状によってはケアマネージャーが同行したり家族に書面を手渡したりしている。家族対応が困難な場合は、かかりつけ医を往診医に変更してもらっている。受診結果は家族から職員へ伝えられ、個別経過記録と申し送りノートに記載し職員間で情報が共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に専従の看護職はいないが体調の変化、気づきがあった際は、すぐに併設の小規模多機能型施設の看護師にアドバイスをもらって適切な支援ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際しては、かかりつけ医と連携し、紹介状などの入手、家族への状況説明など行い、不安の除去に努める。入院してからも状態把握や病院関係者との情報交換や相談のため面会し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応については、家族や病院とよく話し合いを行い、スムーズに受診できたり急変時の連絡体制を整えておける様に準備している。	家族に対しては、入居時に医療的ケアの必要性が出てきた時には、他の施設を紹介するなどの方針をとっていると説明している。今年度は2月にターミナルケアについての職員の勉強会を行う予定であり、重度化、終末期の対応について職員間で検討していきたいと考えている。	重度化や終末期に向けた支援の在り方については、今後も職員の勉強会を開催し話し合いを重ねていくことで、事業所としてどこまで出来るか様々なケースを想定し検討を続けていって欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法や連絡体制を整えてマニュアルを作る事でスタッフ全員が落ち着いて対応できる様にしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。今回は夜間想定避難訓練を実施した。また、研修会を行い知識の向上を図っている。	年2回消防署の協力のもとで避難訓練を実施しており、そのうちの1回は夜間想定訓練を行っている。訓練結果からは、夜間帯のマニュアルの必要性、近隣住民の協力、着替え時間や消防署への通報などが今後の課題として浮かび上がっている。職員は入居者の緊急時に対応できるよう、AED操作を含む救命救急の講習を定期的受講している。	訓練結果を踏まえ、今後も継続的に避難訓練を行うと共に、マニュアルなどを整備していくことが望まれる。また、災害時や避難訓練において、近隣住民の協力が得られるよう、自治会長等を通じ、今後も働きかけを継続していくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、入居者に対する言葉に慣れ慣れしくならない様に気を付けている。プライバシーについては、必要時は居室等で話を聞くようにしている。	プライバシーに関する勉強会を実施し、職員は守秘義務や一人ひとりの個別性について十分理解し責任ある対応を心掛けている。居室に入る時は必ず声をかけて入室することや、入居者同士のトラブルでは少し距離をおいて見守り、タイミングを見計らって声をかけ、お互いの言い分をよく聞いて落ち着きを取り戻してもらおうよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話で本人がやりたい事、楽しみを持って行っている事はなるべく事項できる様にしている。何かを選択する際も本人が選択できる様な声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各入居者一人一人の調子や表情を観ながら活動、作業を行い無理に人と同じことを行うことはせず、その人に合った事を提供できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人と一緒に服を選び声掛けしながら身支度を行っている。本人の希望、要望を取り入れながらおしゃれを楽しめるように介入している。お化粧する機会も作っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の好みを受け入れて、入居者にも野菜切や食器拭き等を行ってもらっている。土日はホットプレートを使用し一緒に作っている。	週3回近くのスーパーから食材が配達される他、入居者と一緒に行き出しに行くこともある。野菜を切ったり、自分の食器を拭いたり、できることを職員と一緒にやっている。流しそうめん、秋刀魚、おでんなどの季節の献立や、ホットプレートでお好み焼きやチャンチャン焼きを作ったり、おやつに干し柿やパンを手作りしたりして、楽しく食べることを支援している。小さな畑を作り、夏野菜の他に冬でも春菊やからし菜などを植え、年間を通して収穫調理された野菜が食卓に出されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調把握し、食事内容や量など配慮している。水分が摂れない時はゼリーなど促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、誘導、見守りを行っている。自力で出来ない方には、介助で実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事で排泄パターンを把握し、トイレへの声かけ誘導や排泄、一部介助を行っている。	ほとんどの入居者が排泄については自立している。声掛け誘導やトイレでの一部介助を介護計画の中に盛り込み、職員が統一した支援を行うことで問題なく過ごせている入居者もいる。万が一失禁のあった時でも、本人の尊厳を傷付けることのないよう対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸の働きが良くなるように、毎日運動や室内歩行、腹部マッサージで便秘予防に取り組んでいる。便秘気味の方には、食事と水分量にも気にかけている。ひどい場合は、主治医へ相談を 検討する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決まっているが、一対一の個浴で午前、午後を通してその方のタイミングが合うところで入浴して頂いている。気分良く入浴できる様に入浴剤を入れたり声かけにも配慮している。	8月からは入浴の時間帯を変更して午前中から入れるようにしたことで、入居者の状況に合わせて入浴出来るようになった。入浴を拒否する入居者に対しては、無理強いすることなく様子をみながら声掛けし、タイミングの合ったところで入浴してもらっている。職員と一対一でゆったりとした入浴を行っており、入居者の思いを聞く良い機会ともなっている。入浴剤を利用する以外に、ゆず湯などの季節風呂も楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や疲れ具合をみながら休息が必要であれば、声かけ促しを行っている。ベッドメイキングや布団干しなどを行い、衛生面に気をつけ安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり、薬の処方用紙をファイリングし、内服の種類や回数の把握に努めている。内服薬は、必ず口に入れ飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員で行う事もあるが、個人が得意としている事や好きな事を聞き、楽しみを優先している。また、気分転換を図れる様、外出機会も確保している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	良天時には、屋外散歩、楽しみとして外食や近場をドライブできる機会を計画し実行している。	入居者の希望を聞いて、スーパーなどへ衣服を買いに個別に出かけたり、全員で道の駅、羽田沼の白鳥見学、三島神社祭、リンゴ狩りと外食、紅葉の大山参道見学など様々な場所に出かけて行き外出を楽しんでいる。天気の良い日は近隣の散歩が日課となっており、保育園児や近所の顔なじみの方と挨拶し交流するのも楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い銭を管理者が預かっているが、入居者がお金を持つ機会がない。今後、外出時やパン屋来所時に入居者が支払いをしてもらえる様、取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手からかかってくるのであればお話しできるが本人自ら電話する事がないので希望時には、支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙に季節感出した貼り絵など職員及び入居者作ったものを共用空間に飾っている。又、毎日清潔が保てる様、職員と入居者全員で掃除を実施。細かい所は、職員が配慮し掃除を実施している。	訪問調査が12月ということもあり、玄関を入るとサンタのぬいぐるみが出迎えてくれ、クリスマス飾りやツリーが廊下や居間の随所に品よく飾られていた。室内外ともバリアフリーとなっており、車いすでも使いやすい間取りとなっている。リビングの外のテラスからは田んぼが見渡せ季節の移り変わりが見て取れる。居間の壁には敬老会で贈呈された一人ひとりの人柄や役割を表現した賞状が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや廊下にある椅子、畳スペース、食堂、ホール、居室、ウッドデッキ等独りになれたり離れることが出来たり、各入居者がそれぞれ居心地が良い場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様が持参された馴染みの物品を活用している。本人の混乱を少しでも避けるように配置等の工夫もしている。	居室の入口にはそれぞれ花の絵のプレートが掛けてあり、居室ごとに壁紙やカーテンの色が異なっていて自分の部屋がわかりやすくなっている。衣類は季節ごとに家族が入れ替え、掃除も行き届いているため部屋が散乱することなく綺麗に整頓されている。使い慣れたダンスやテレビなどを持ち込み、家族の写真や造花やテーブルクロス、誕生日に送られてくる生花などを飾り、それぞれの好みにあった居心地の良い居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレが分かる様、印をつけたり、その都度職員が声かけ、誘導している。		